



自民党・無所属 大阪府議団だより

茨木市選出

うらべそつま

うらべ走馬

議員が府議会で 一般質問



今回の議題

うらべ走馬議員は、10月4日に開かれた府議会の本会議で一般質問に立ち、彩都周辺の交通インフラの整備状況や自転車通行空間整備への取り組み、安威川ダム完成後の利活用についてなどを質問しました。

Profile プロフィール

沢池小学校・西陵中学校・太成高校・日本大学法学部政治経済学科卒業。(一社)茨木青年会議所・茨木商工会議所青年部所属。沢池FCコーチ。自由民主党大阪府連青年局副幹事長。

まちづくりの整備 彩都周辺の交通インフラ整備

西河原西交差点の立体交差化 ついに来年度より着工開始!

Q. うらべ議員 新名神高速道路の川西IC～高槻ICの開通に向けて整備が進むなど、彩都周辺における交通の円滑化のために、新たな道路ネットワークは勿論、既存道路の渋滞対策なども急務だ。新名神への主要アクセスとなる都市計画道路大岩線の整備の推進、大岩線に繋がる府道茨木亀岡線と国道171号とが交差する西河原西交差点の立体交差化事業の早期完成も重要と考える。進捗状況や今後の予定はどうか。

A. 都市整備部長 都市計画道路大岩線は用地買収が完了して工事を進めており、このうち茨木千提寺ICから府道茨木摂津線は新名神の開通と同時に供用する予定です。府道茨木摂津線から茨木亀岡線までは平成31年秋の供用を目指し、西河原西交差点の国道171号を越える立体交差化は、建設事業評価審議会(平成28年度)において事業実施の意見具申を得ており、来年度から現地工事に着手する予定です。

安威川ダム完成後の利活用

観光資源 の活用

ダム湖や周辺の自然環境を生かし、ゾーンごとに魅力を!

Q. うらべ議員 「安威川ダム周辺整備基本方針」が策定され(平成21年8月大阪府と茨木市)、ゾーンごとの利活用の方針が示された。地元の方々などの意見等を含めたダム周辺整備を実現するため、茨木市が民間活力の導入を検討と聞いている。地域との連携を図りつつ、スケジュール感を持ち、府と市が密接に協議を重ね進める必要がある。

A. 都市整備部長 府は河川区域で民間事業者が営業活動をできるよう、規制緩和を検討しており、茨木市は昨年度より民間事業者へのヒアリングを実施しています。茨木市と協議、調整を行い、地域とも意見交換を重ね、年内には民間活力の導入エリアを含めた、安威川ダム周辺整備の全体像を取りまとめます。

教育の振興

交流時には、 より良い環境づくりが必要

Q. うらべ議員 府において支援学級の児童生徒が増加する中、支援学級の児童生徒が通常の学級に入って交流する際^(※)には、より良い環境づくりが必要となる。茨木市でも交流の時間には児童生徒数が40名を超えるなど、クラスが過密な状況の学校もある。府教育庁では、この状況を把握しているのか。
(※大阪府では支援学級に在籍する児童生徒が通常の学級の児童生徒と「ともに学び、ともに育つ」教育を全国に先駆けて推進している。)

A. 教育長 「交流及び共同学習」で、1クラス40名を超える状況があることは承知しています。担当教員に加え、支援学級担当の教員や市町村が雇用する「特別支援教育支援員」等も交流学級に入り、児童生徒への指導・支援の充実に取り組んでいます。

支援学級在籍の 児童数増加における課題

Q. うらべ議員 今後も支援学級に在籍する児童生徒は増加していくと思われる。「交流及び共同学習」のクラスが過密となる課題についてどのように取り組んでいくのか。

A. 教育長 増加に対して支援学級の設置や障がい特性に応じた「通級指導教室」^(※)の設置を進めており、今年度は「交流及び共同学習」の充実に必要な財源措置や通級指導教室の基礎定数化の確実な実施を国に要望しています。
(※通常の学級に在籍する児童生徒が障がい特性に応じた専門的な指導・支援を受ける教室。)

支援学級と通常の学級における 「交流及び共同学習」の充実について

【まちづくりの整備】 POINT うらべ議員の要望(平成28年2月定例会)により、着々と進む自転車レーンの整備

自転車通行空間整備の取り組み状況

Q. うらべ議員 茨木市では自転車ネットワーク計画に基づき、府と市が連携しながら自転車レーンの整備が進められ、駅周辺などでは自転車レーンが目立つようになってきた。大阪府管理道路では、万博公園を挟んで2本の自転車レーンがあり、このうち東側の大阪高槻京都線では茨木市から吹田市まで整備が進められているが、大阪都心まではつながっていない。現在の状況はどうなっているのか。

A. 都市整備部長 自転車通行空間については、緊急3か年計画に基づき、平成30年度までに60kmを整備します。さらに、市町村道とネットワーク化することでより大きな効果を発揮することから、特に自転車関連事故が多いなどの市町村に対して自転車ネットワーク計画の策定を働きかけています。

河川敷を活用した自転車ネットワークの整備

Q. うらべ議員 自転車レーンは長距離に渡って移動できてこそ意味があり、広範囲に広がっている河川敷を活用しての整備が有効だ。淀川や大和川などの一部区間にはサイクルロードが整備されているが、ぜひ、ほかの河川にも広げてほしい。河川敷の活用も含めた、自転車ネットワーク整備に向けた今後の取り組みは?

A. 都市整備部長 河川敷の活用という視点も踏まえて計画策定を進め、市町村に働きかけるとともに、府管理道路についても平成30年度を目途に、10か年整備計画を策定します。

